

奥能登地域で臨時災害放送局のデモンストレーションを実施 ～輪島市門前町、珠洲市正院町で運用実験～

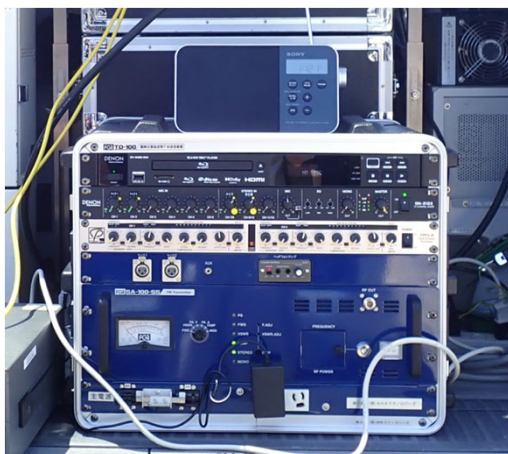
総務省北陸総合通信局（局長 安東 高德）は、日本放送協会金沢放送局（局長 松本 昭博）と連携し、令和8年5月30日（土）に輪島市門前町で、同年6月21日（日）に珠洲市正院町で、それぞれFM実験試験局を用いた臨時災害放送のデモンストレーションを実施しました。

本取組では、日本放送協会金沢放送局による公開収録にあわせ、臨時災害放送局を実験的に運用し、町野復興プロジェクト実行委員会が各地域住民向けに制作したラジオ番組を放送しました。両地域とも仮設住宅を中心としたエリアを対象に、地元出身のパーソナリティらによる地域密着型のニュースや防災情報を発信しました。参加した住民からは、「インターネット利用が難しいので、ラジオで地域の情報を聴けるのはありがたい」「災害時にこのようなラジオ番組があれば安心する」といった感想が寄せられるなど、関心の高さがうかがえました。

北陸総合通信局は、引き続き臨時災害放送局の有効性についてPRするとともに、開設支援などを通じて災害情報の発信による安心・安全の確保を推進してまいります。

【臨時災害放送局】

暴風、豪雨、洪水、地震、大規模な火事等の災害が発生した場合に、その被害の軽減に役立つよう、被災地の地方公共団体等が臨時かつ一時的な目的のために開設するFM放送局



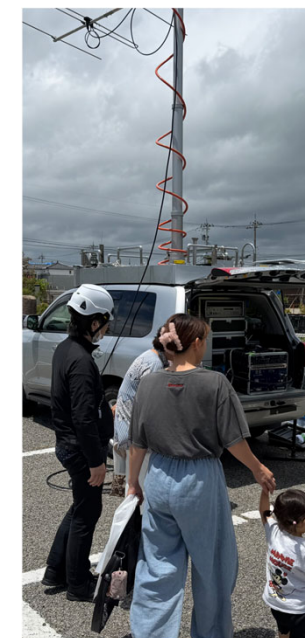
臨時災害放送局用設備
（輪島市）



臨時災害放送局用設備を展示
（輪島市）



当局から臨時災害放送局について説明
（珠洲市）



設備を見学する住民の方々
（珠洲市）